

N I E の活動の幅を広げる「地方紙全国制覇」の取り組み

伊丹市立笹原中学校 校長 岡本 光子
教諭 山岡 永美

1. はじめに

本校では、毎朝 8 : 30 ~ 8 : 40 の 10 分間に朝の読書タイムを設定し、読書の習慣化や文章を読み取る力、語彙力などの言語力の育成を図ってきた。しかし、自分の考えや思いをまとめたり、書いたりする力が弱く、読書と並行して活字に触れながら「書く」力の育成を図るため、平成 24 年度 2 学期から週 1 回、朝の読書タイムに「朝 N I E」と名付けた新聞記事を活用した読解ワークを実施した。本稿では、「朝 N I E」を 1 年生から 3 年生まで継続して実施した平成 26 年度卒業生の活動から、地方紙の記事の活用と「地方紙全国制覇」を目標に挑戦した地方紙集めの取り組みを中心に報告する。

なお、「朝 N I E」については、2013、14 年度兵庫県 N I E 実践報告書に詳細を掲載している。



新聞閲覧コーナー

2. 「朝 N I E」と「地方紙全国制覇」の取り組み

「朝 N I E」の実践により、新聞を閲覧する生徒も増えた。また、家で新聞を読んだり、「朝 N I E」の記事の内容について、家族で語り合ったりする中で、新聞への興味・関心も高まっていった。さらに、「朝 N I E」のワークシートの中から毎回 B E S T シートを選び、関連記事や写真などとともに掲示すると、生徒も楽しみに掲示を見たり、自分が B E S T シートに選ばれたりすることで、学習意欲も高まった。また、来校した保護者や地域の方々、関係機関の方々などが掲示を通して学校の取り組みを知り、褒めていただいたため、生徒や教員の意欲も高まった。国語のテストの得点が上がったと喜ぶ生徒や開始当初は記事を読み解き、感想を書くことが全くできなかった生徒も 2 年生になると毎回の「朝 N I E」を楽しみにするようになり、文章を読み、感想や意見が書けるようになった。

そのような中で、2 年生の夏休みに奄美大島に帰省した生徒が持参した「奄美新聞」の記事を使って「朝 N I E」のワークシートを作成した。全国の離島地域で初めて自動車のナンバープレートに「ご当地ナンバー」として奄美ナンバーが導入されたこと

を伝える記事から、「ご当地ナンバー」への奄美の人々の強い思いと市長や観光協会の職員、国会議員の喜びの理由を記事から読み取らせた。最後に、「この記事を読んで、考えたことや思ったことを書きましょう」と、自分の考えや思いを書く欄を設けた。遠く離れた地方の様子が分かり、自分たちの生活の様子と比較し、知らないことをもっと知りたいという意欲が高まった。

そこで、全国の「新聞タイトル」集めを「朝NIE」の取り組みと並行して行うことにした。各新聞のタイトルを切り抜き、段ボールで作った日本地図に貼り付けて掲示した。地元「神戸新聞」のタイトルの背景は「菊水」が描かれ、「静岡新聞」には「海上から眺める富士山」が見られるなど、文字の形や背景のイラストにも地域の特徴が表れ、地理の学習にもつながる上に、達成感もあり、この取り組みは生徒や教員はもちろん、来校者にも大変好評であった。また、地図を見ると、どこの都道府県の新聞がないか一目瞭然であり、生徒や教員、保護者や関係機関の方々などが出張や帰省などの際に持ち帰り提供いただくようになった。時には、ふるさとから届いた小包に詰められた新聞をきれいに伸ばして、保護者から届けられたこともあった。

さまざまな地方紙が届くたびに、地方色豊かな記事を選び「朝NIE」のワークシートを作成したり、記事を取り上げなかった新聞も閲覧したりできるようにした。3年生の2学期早々に実施した「朝NIE」のワークシートでは、1年生の生徒から提供された「秋田魁新報」の記事を取り上げた。3年生の1学期に国語で学習した「絶滅の意味」に関連し、「キタムラサキ」と「ムラサキ」の2種類のウニが増減した原因を記事から

読み取らせ、今後予測される他の海洋生物への影響について東北大学が調査した結果などから、環境について考えを深められるような構成のワークシートを作成した。国語で学習したことが、実際に東北で発生している現実から、より身近な問題として環境を捉える良い機会となった。

地方紙は、各都道府県の地方紙を最低1社は集める目標を設定し、本校のNIEの取り組みを応援してくださったたくさんの方々の協力により、開始から1年半で47都道府県の地方紙タイトルの収集が完了し、素晴らしい卒業記念品となった。



2013. 8. 3 奄美新聞「奄美ナンバー導入決定」



2014. 8. 14 秋田魁新報「男鹿・戸賀湾ウニ異変」

3. 集めた地方紙 63 紙

北海道…北海道新聞

東北…東奥日報 陸奥新報 岩手日報 盛岡
タイムス 秋田魁新報 山形新聞
福島民報 河北新報 石巻日日新聞
北鹿新聞

関東…茨城新聞 下野新聞 上毛新聞 埼玉
新聞 千葉日報 神奈川新聞 東京新
聞 たまふあん新聞

中部…北國新聞 富山新聞 北日本新聞 山梨日日新聞
新潟日報 信濃毎日新聞 静岡新聞 岐阜新聞
伊勢新聞 中日新聞 福井新聞

近畿…滋賀報知新聞 京都新聞 奈良新聞 紀州新聞
神戸新聞 丹波新聞 中日新聞（滋賀）大阪日日新聞

中国…山陽新聞 山陰中央新報 備北民報 日本海新聞
山口新聞 中国新聞 島日たいむす

四国…四国新聞 徳島新聞 愛媛新聞 高知新聞

九州…長崎新聞 佐賀新聞 西日本新聞 大分合同新聞 宮崎日日新聞
熊本日日新聞 南日本新聞 沖縄タイムス 琉球新報 宮古新報
宮古毎日新聞 八重山毎日新聞 八重山日報 奄美新聞



地方紙全国制覇後の掲示



神戸新聞題字

4. 生徒の感想から見える成果

「朝N I E」と「地方紙全国制覇」の取り組みを並行して行い、地方紙の記事もワークシートの中で取り扱うことにより、生徒のN I Eや社会の出来事への興味・関心は高まり、取り組みも意欲的になった。また、地方紙を収集する中で、協力者が増え、多彩な記事から多くの事柄を学ぶとともに、家族をはじめ関係者の協力が生徒の励みになり、自分に身に付いた力に手応えを感じるようになっていった。このように、地方紙を取り入れた活動を並行して行った結果、学習の幅が広がり、成果をより強く実感できた。3年生の生徒が書いた感想から取り組みの成果が読み取れる。以下に感想の一部を紹介する。

- ・廊下にはあってある日本地図の新聞名を見ると、デザインや色も一つひとつ違って、見ているととてもおもしろいなと思った。全部集めたからこそ、初めて知り、

特徴に気づくことができたと思う。1年生の頃から、毎週金曜日は「朝N I E」で「当たり前」になっていたが、75回目を終了してみると、とてもすごいことをしてきたと実感した。その県によって記事も少しずつ違うし、1週間の内にどんどん日本で色々なことが起こっているということも分かった。朝から文を読むのがしんどいと思うこともあったが、続けているとだんだん読めるようになってきて、難しい記事でも読んでみようと思うようになった。また、小学校では全く読んでいなかった新聞を少しずつだが読むようにもなった。この「朝N I E」のおかげで、読むのはもちろん、内容を理解して書くという力もつけることができた。全国の新聞を知り、その地域の特徴を学びながら、国語の力もつけることができた。とても良いものだったと思う。

- ・「朝N I E」の取り組みを通して、全国の新聞を読むことができた。全国の新聞が集まったのはすごいと思う。いろいろな新聞を読み取ることができてよかった。みんなで協力して全部のタイトルが集まって良かった。学年として一つのことを達成できた。
- ・「朝N I E」によって得たものはとても多く、数え切れない。ワークシートの自分の意見を書くところが一番好きだった。今、新聞を読む人は減ってきている。だからこそ文章を目で追い、読み取り、自ら判断する力が必要になる。一つの地域に限らず、広い地域の記事を読むことによって、その地域の良いところや問題点が見えてくる。多くの新聞を読むことができた「朝N I E」は良いものだった。

5. おわりに

本取り組みを行う上で、漢字の読み方なども含めて、丁寧に指導することで「学ぶ」「知る」喜びを感じてほしいと願い、きめ細やかに根気強く指導に当たってきた。また、興味・関心を持ちやすいように、身近で自分たちの生活と関わりのある記事を選ぶようにしてきた。そして、生徒の学習課題を把握し、生徒に身に付けさせたい力やその力の伸びしろの大きさまで、教員間で共通理解し、生徒も教員も楽しみながら取り組んできた。さらに、「朝N I E」と「地方紙全国制覇」を並行して行った成果として、日本各地にはその土地ならではの話題があり文化がある事実も、記事を通して知ることもできた。自然と自分たちの住むまちと比べて、理解を深めるようになった。また、学校の取り組みを目に見える形で示した結果、教員や生徒の思いをくみ取ってくださった多くの方々の温かい支援の輪も広がった。何より、家庭での会話の中で「朝N I E」が話題に上るようになり、ファミリーフォーカスが根付いていったことは、学習効果を高める一番の要因であったと言える。